

私だからできること

富士通エフサス太陽株式会社
サービス事業部

長 野 沙 季

私は2020年に現在の会社に入社しました。前職では栄養士として老人ホームで勤務しており、主に食事の準備や食材の発注、収支や在庫の管理等を行っていました。学生時代よりPCを使って行う作業が好きだった私は、栄養士の仕事でも事務仕事を率先して引受けていました。栄養士の仕事にやりがいを感じていましたが、やがて、PCに関わる仕事に就きたいという思いが段々と強くなり、転職を決意しました。

入社後、私は神奈川県で行われる、本社の新人研修に参加する事になりました。ずっと地元の大分県にいたため、初めての県外での生活に心を弾ませていましたが、研修を前に新型コロナウイルスの流行が始まり、同期入社の方々と顔を合わせることもできぬまま、オンライン形式での研修が始まりました。

研修は、社会人としてのマナーや、Officeの使い方等の講座から始まりました。中盤からは配属後の職種によってクラス分けされ、各々がより専門的な知識を学んでいきました。私は、CE向けのクラスに所属していたため、研修初期より更に技術的な内容の講座を受け、保守作業時に必要となる知識や注意事項等について学びました。

オンライン研修のため、もちろん実際に装置を見たり触ったりすることは出来ず、電子テキストの中の情報を頼りに学習を進めてい

くしかありません。疑問に思うことがあっても、画面上のみで、同期と交流を深めることはなかなか難しく、あまり気軽に相談できる状態ではありませんでした。一人で煮詰まりながらも自己学習を進め、講座ごとの修了試験をクリアする事は出来ましたが、「頭になんとか詰め込んだ状態のこの知識は、はたして正しく身につけているのだろうか」と不安を覚えていました。

PCの操作は得意でしたが、専門的な知識が乏しかった私は、周囲の情報系学科出身の人を羨ましく思ったり、栄養士からの転職はやはり厳しいのではと思ったり、不安な気持ちが徐々に大きくなっていきました。そんな時、研修の講師の方だけでなく配属先の上司や先輩方に、思い切って疑問点を質問すると、とても丁寧に解説していただき、少しずつですが不安が解消していき、無事に3か月間の研修を終える事が出来ました。

その後、現在の部署に配属されPCの修理に携わる日々が始まりました。実際の作業現場に出てみると、研修では体験できなかった作業や耳なじみのない言葉に戸惑う事が多く、「私にPCの修理業務が務まるのだろうか」と考えたこともありましたが、ここでも周りの方の支えにより少しずつできることが増え、故障したPCを自分で診断し、部品交換後に修復した事を確認出来た時には、修理

が楽しいと感じるようになっていきました。

また、前職がP Cの修理と全く関わりのない仕事だったことを勝手にマイナスに捉えていましたが、働くうちにその考えが変わっていきました。

きっかけとなったのは、この会社の従業員の約半数の方が何らかの障がいを持った方達だということです。最初はどのような職場か想像がつかず、何か特別な配慮が必要なのだろうかと考えていましたが、作業しやすい環境づくりに全員で取組んでおり、障がいの有無にかかわらず、皆が生き生きと働いている姿を見てとても感銘を受けました。そこで前職での経験を活かして、私だからこそできることがあるのではと考えるようになりました。

現在、P Cのオフサイト修理を担当していますが、ここではお客様と直接関わることがありません。装置をお預かりしている間に、申告現象はもちろん、他にも不具合がないか充分に確認し返却する必要があります。前職では栄養士という事で、「薬との食べ合わせ

に問題はないか」「誤嚥を防ぐにはどうしたらよいか」「好き嫌いなく食べてもらうには」等と、食事を提供するだけでなく、命に関わる仕事でもあるとの意識を持って仕事に携わっていました。そこで培った注意力や相手のことを考える力が、現在の業務でもとても役に立つのではという事に気付きました。

お客様の申告外の現象を発見し「よくここに気が付いたね」と先輩に言っていただけたことで、栄養士だった経験はマイナスではなく、むしろ活かしているのだと、改めて実感する事ができました。これは、私だからこそできることだと感じ、今後も大切にしていこうと強く思いました。

入社後、2年が経ちましたがまだまだ未熟であり、より多くの経験を積み知識をつけなければならないと日々感じています。そのような中でも、私は「私だからこそできる保守サービスとは何か」という事を常に考えながら、これからも業務に取り組んでいきたいと思っています。